

国立大学図書館ビジョン 2020の構成とねらい

竹内 比呂也 (千葉大学)

なぜ「ビジョンが必要だ」と考えたのか？

- ▶ これまでのモデル：学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」（1980年1月）→「学術情報センター」（1986）
- ▶ 法人化後の国立大学の変化
 - ▶ 群としての大学図書館のまとめり vs 個々の大学において、その目標達成に向けた一要素としての図書館の個別化
- ▶ 図書館を取り巻く環境の変化（技術，制度）
- 国立大学図書館関係者なら皆「そういうものだ」と思っていたことを改めて言語化して共有しておく必要性→大学図書館の本質的な役割の再確認

基本理念

大学図書館は、今日の社会における知識基盤（知の支え）として、記録媒体の如何を問わず、知識、情報、データへの障壁なきアクセスを可能にし、それらを活用し、新たな知識、情報、データの生産を促す環境を提供することによって、大学における教育研究の進展とともに社会における知の共有や創出の実現に貢献する。

ハーバード大学図書館のミッション(2013)

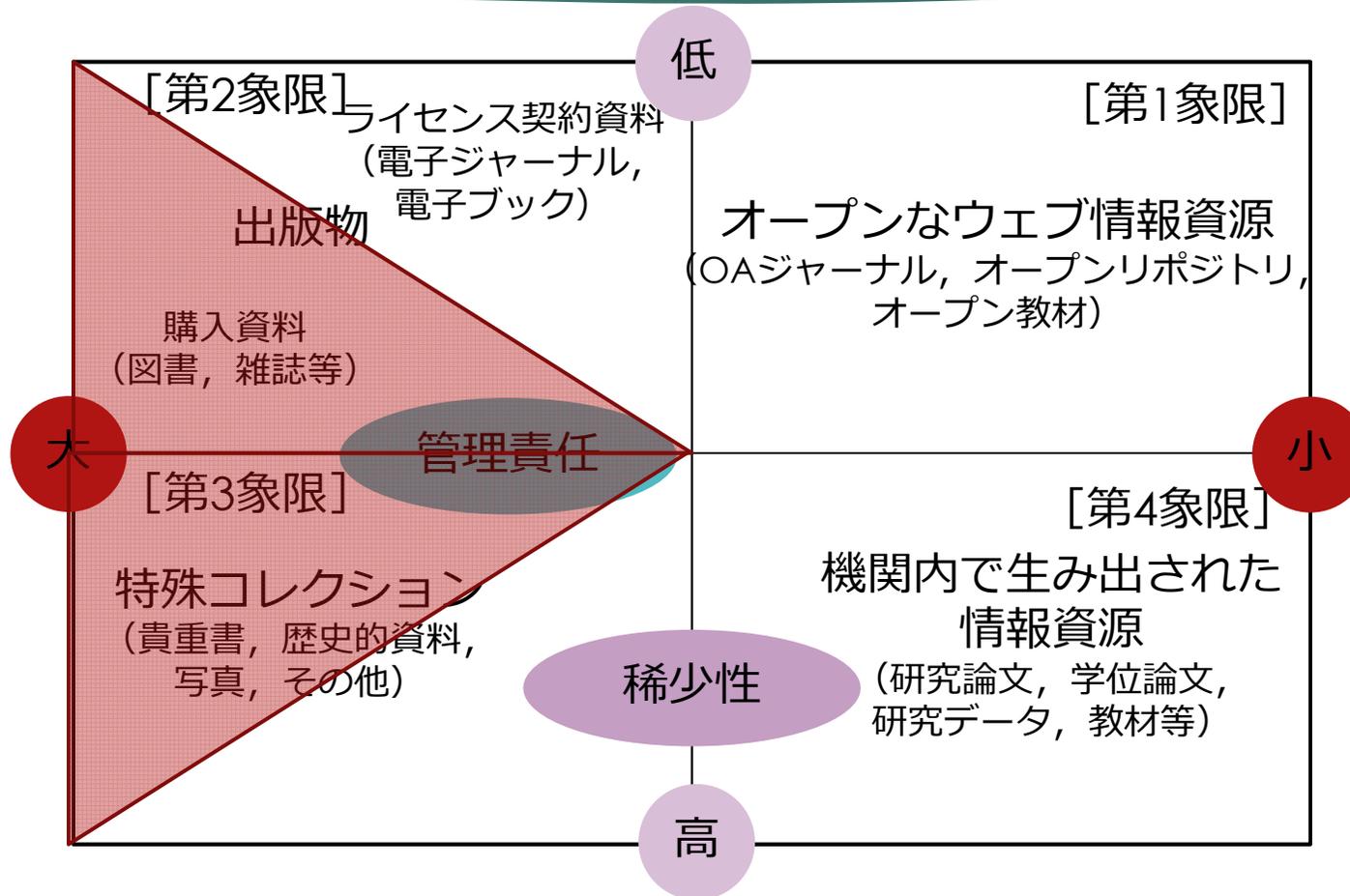
The Harvard Library advances scholarship and teaching by committing itself to the creation, application, preservation and dissemination of knowledge.

重点領域，戦略的目標

「2020に到達ではなく，2020においてどのように先を見透すことができるようになるか いわば図書館の未来志向的な自画像を！」（深貝保則）

重点領域1：知の共有

コレクション・グリッド



重点領域2：知の創出

◆ 知を創出する場

- 1) 学習を促す場
- 2) 図書館外へのエクステンション
- 3) 研究を支援する場

◆ 社会に開かれた知の創出・共有の場

重点領域3：新しい人材

◆ 知の共有と創出のための新しい人材像

1) 図書館員以外の人材の参画

2) 図書館員の機能強化

高度な機能分化？

緩やかな専門性の発揮へ？

◆ 何れにしても制度面での整備が課題

アクションプラン

- ▶ 国立大学図書館全体に関わるもの：新しい委員会で検討
- ▶ 各会員館に関わるもの：各会員館が各大学の目標などとすり合わせながら検討